

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873700441
法人名	医療法人青峰会
事業所名	アクティブライフ 保内
所在地	愛媛県八幡浜市保内町宮内1番耕地324番地 (電話)0894-36-2103
自己評価作成日	平成22年8月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

24時間医療連携体制により、主治医と看護師連絡・指示を仰ぐ事が出来るので安心感が持てる。
家庭菜園で四季折々の野菜を育て、食事に出して、目と舌で楽しんでいる。
水分補給時には、個々の好みに応じて色んな飲み物を出すようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ご家族にも毎回案内を出して、会議への参加を呼び掛けておられる。会議に参加されたご家族からは「ケアの取り組みの詳細がよく分かった」と感想をいただいた。会議で話し合った内容は、ホーム便りでも報告されている。参加者からは、事業所の看板が小さい、ホーム便りの写真が小さい等、具体的な意見をいただいております、改善していけるよう話し合いを行っておられる。
いろいろな理由を言って「入らない」と言われる利用者の方は、時間をおいて誘ってみられたり、声かけを工夫されている。併設デイサービスのリフト浴を利用されている方もあり、ユニットから1名ずつ2名の職員が介助して支援されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ 保内

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)
氏名 宇都宮 加代

評価完了日 平成22年8月25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域との交流をする機会は少なく、十分ではないが、理念に基づき、家族、ホーム内の取り組みは、職員間で協働の気持ちを大切にしながら、実践に繋げている。	
			(外部評価) 「地域 家族 ホーム間における相互のふれあいを大切にし、笑顔あふれるその人らしい生活を支援する」と平成20年に理念を作成して、玄関に掲示されている。事業所では「地域の方やご家族と協力して利用者を支えていける」よう取り組みをすすめておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の清掃作業や支部総会などに参加し、近隣の方との挨拶にも努めているが、日常的な交流は十分ではない。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加いただいている区長の方から「事業所のこと分かった」と感想をいただいた。敬老会には、日赤奉仕団の方が、色々な余興を見せてくれる予定になっている。又、地域の方が野菜や花の苗を持って来て下さり、中庭に植えて利用者が見て楽しんだり収穫されている。	地域の方達に事業所のことをさらに知っていただけるような取り組みや、地域のことを知ることのできるような機会作りに工夫を重ね、地域との関係を深めていかれてほしい。又、事業所の特性や有用性を活かして、地域に貢献できるようなことについても考えていかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ホーム内の利用者の支援で精一杯な点が多く、地域に向けての支援には至っていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>意見や評価などを頂き、スタッフ会で話し合い、サービス向上に活かしていけるように努力している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>ご家族にも毎回案内を出して、会議への参加を呼び掛けておられる。会議に参加されたご家族からは「ケアの取り組みの詳細がよく分かった」と感想をいただいた。会議で話し合った内容は、ホーム便りでも報告されている。参加者からは、事業所の看板が小さい、ホーム便りの写真が小さい等、具体的な意見をいただいております。改善していけるよう話し合いを行っておられる。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>管理者が市の担当者との情報交換に努めており、連絡会議や研修会の参加で情報収集や意見交換を行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>市の職員は、運営推進会議には「平日の昼間」に参加して下さるようになってきている。市が主催で、グループホーム連絡会が2ヶ月に1回開催されている。連絡会には、管理者とともにユニット職員が交代で参加しており、各事業所が「知りたい内容」を持ち寄り意見交換をされている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>玄関にはチャイムを設置し、見守りを重視している。勉強会にも職員は交代で参加しており、身体拘束をしないケアは理解している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>身体拘束をしないケアの実践に向けて、職員全員で勉強されている。ご家族からは「安全のためにベッド柵を付けてほしい」と要望される場合もあるようだが、ご本人の動きが分かれば職員が駆け付けることを説明して、ご理解いただき、手すりの柵に鈴を付け、見守りを多くして対応されている。又、利用者によっては、ご家族に持参していただいたマットレスをベッドの足もとにおいて対応されている方もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>(自己評価) 附帯施設の勉強会、研修会に参加し、学ぶ機会を持っている。利用者の自宅までは把握できていない。</p>	
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 研修会や勉強会で学ぶ機会は設けられているが、現時点では、この制度を必要とされる方がいない為、話し合いはしていない。</p>	
9		<p>契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>(自己評価) 契約時には、管理者から十分な時間をかけて説明をしている。不安や疑問点に対しては、丁寧な回答に努めている。</p>	
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>(自己評価) 家族の面会時には意見や要望を聞き、コミュニケーションに努めている。その後は、スタッフ会、業務日誌、申し送り等を活用し、職員間で改善に繋げている。 (外部評価) ご家族には、入居時に「何でも言って下さい」と伝えておられる。管理者は職員に「ご家族の来訪時には、必ずご家族へ声をかける」よう話しておられる。足遠くなっているご家族には、電話等で現況報告をされ、要望等を聞くようにされている。</p>	<p>事業所では「ご家族と協力し合って利用者を支えていきたい」と考えておられ、今後さらに、ご家族の声を多く聞けるような取り組みに工夫していかれてほしい。たとえば、外部評価結果や家族アンケートの集計表等を用いて具体的なご意見を引き出してはどうか。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			スタッフ会や年2回の面接時に、意見や提案を聞く機会が設けられている。	
			(外部評価)	
			月に1回のスタッフ会は、全員が揃う貴重な機会でもあり、管理者は職員個々に、発言の機会を作り、意見を引き出しておられる。スタッフ会で「翌月の行事予定」を立ててシフト調整等もされている。「中庭の草引きに手が足りない」ことを相談すると、すぐに、法人から草刈りに来ていただき、きれいになっていた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			資格、勤務数、態度などによつての登用制度がある。半年に1回各自で目標を立て、反省等を行うなどし、把握に努めていると思われる。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			事務所に研修の案内を置き、自由に参加出来るようにしている。附帯施設勉強会も交代で参加している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			市が主催している研修や連絡会議に参加し、交流の機会は設けられている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			管理者が事前訪問をし、本人さんが不安や疑問が残らないように、耳を傾け信頼関係に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>初期段階は管理者が関わっているが、その後は職員が家族面会時に不安や要望等を聴き、又、本人の近況報告などもするように関係作りに努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>母体の病院からの入院の方が大半で、サービス内容を決定した段階で入居されている。又、スタッフ会等で話し合い、支援する事を見極め、サービスに努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>常に一緒に生活をするという意識を大切にし、日々の作業の中で、コミュニケーションを取りながら共に参加し、関係づくりに努めている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケアプランは家族の要望を必ず取り入れている。面会時には近況を伝えるようにしており、又、体調不良の時などは、直接電話連絡を行っている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>たまに、昔の知人の方が訪ねて来られる時があり、その時には、ゆっくりと過ごして頂いている。入居すると距離が出来ていて、支援には難しいものがある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご主人が毎日来られる方や、夕食介助に来られる息子さんもいる。以前からカラオケがお好きな方が、事業所でもカラオケを楽しんでおられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士のトラブル発生時には、仲介役に入り、落ち着いて頂くよう、声かけをしている。又、状況に応じて席を工夫したり、日々の作業で共に関わり合えるよう努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約解除後は殆どが関係性が無くなっており、支援には至っていない。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人一人の思いや、希望を日々の関わりや、スタッフ会での話し合いの中で、取り入れている。又、困難な場合は、日々の観察から、把握に努めている。 (外部評価) 利用者に「どうしたいか」をお聞きしても「お返事をもらえない」ことが増えてきているようだ。ご家族にお聞きしたり、管理者は、日頃のご本人の言葉の中から探っていきたいと考えられ、利用者ご本人の言葉を記録するように職員に話しておられる。	管理者は、さらに「記録の仕方を検討して、利用者の日常的な会話や行動から意向の把握に努めていきたい」と話されていた。さらに、アセスメントも入居時のままの場合もあるようだ。現状に即した計画の作成に向けて、ご本人の思いや意向等の収集に努められアセスメントを充実させ、介護計画に反映していかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族からの聞き取りで情報収集し、サマリー等で出来るだけの把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝夕の申し送り、記録等、日々の関わりの中で、周知する事が出来、現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>月1回、スタッフ会で課題やケアのあり方、評価等を話し合っている。家族、本人の意向を聞き入れて、ケアプランを作成している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>ご家族の意見をお聞きして、職員でも話し合い介護計画を作成されている。</p>	<p>今年9月、ケアマネージャーの交代があり、介護計画に沿った記録を書くような欄を設けることを検討されていた。介護計画の支援状況が確認できるような記録に整備されて、具体的で現状に即した計画の作成に取り組んでいかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>個別記録に日々の様子を記録し、情報を共有しながら、確認、実践やケアプランの見直しを話し合っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>本人や家族が望まれる生活が出来るように、出来る限り支援に努めている。必需品が間に合わない場合など、家族に了解を得た上、職員が購入している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>地域資源との協働は十分とは言えない。中、高生職場体験、見学は定期的に学校側から要望があり受け入れ実施している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>主治医、連携看護師と24時間体制で報告出来るよう になっており、定期的に往診、看護師訪問がある。必 要に応じ、他の医療機関への受診もある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>かかりつけ医は、定期的に往診して下さる法人の医 師となっているが、希望があれば他の医療機関への受 診や入院もできるよう支援されている。法人の看護師 が、週1回健康チェックに来られ、利用者の体調管理に ついて相談されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>約1週間に1回は看護師が来所し、日常の些細な点も 相談したり、情報を伝えたりして、適切なアドバイ スを頂いている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院は主に母体の病院となることが多く、医師往診や 看護師訪問時に情報交換は出来ている。又、医療情報 課を通し相談も出来る体制にある。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>重症化すると母体の病院への入院となることが多い。 契約時には、管理者から説明を行っているが、地域の 関係者とのチーム支援を行うには至っていない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時に、看取り支援についてご家族に説明されてい る。これまでに事業所で看取りを支援されたことはな いが、希望があれば主治医・看護師・ご家族・管理者 で話し合い、対応していくようになっている。実際に 利用者が食事が摂れなくなったり、呼吸が辛くなる と、ご家族は、入院を希望されるようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に勉強会へ参加し、学ぶ機会はあるが、全職員で訓練を行う機会は少ない。個々に実践力を身に付けるように努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の避難訓練が実施されている他、災害に対するマニュアル等も作成されている。今年はスプリンクラーも設置された。 (外部評価) 3月にスプリンクラーを設置された。夕食後の利用者が居室にいる夜間時に、実際に避難訓練を行われた。「昼間とは違って利用者一人ひとりをベッドから車いすに移し避難させることは、予定より時間がかかった」と管理者は話しておられた。消防署からは「何回か繰り返して自主訓練を行う」ことをアドバイスいただいた。いざという時は、地区の区長の方に連絡するようになっている。地震の場合は、中庭に避難するようにホーム内で決めておられる。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーの確保には十分配慮を行っている。声掛けや対応には各職員にばらつきがあり、改善すべき点もある。 (外部評価) 利用者同士のトラブルには、双方のプライドを傷つけないような対応に配慮されている。管理者は、利用者に「ちゃん」と、呼びかけたり、幼児言葉を使ったりしないように職員に周知されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員不足等により、職員側のペースになってしまう事があるが、出来る限り利用者の声に耳を傾け自己決定出来るよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 重度の方が多く、一人一人の介助に時間がかかることが多いため、職員側のペースになることがあるが、本人の希望を聞くよう心掛けている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月1回、出張理容を利用している他、日々身だしなみや整髪等行うよう気を配っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえ、片付けなど、出来る限り協力しながら行っている。食事の際には、声掛けをしながら楽しい雰囲気の中で食べて頂くよう心掛けている。 (外部評価) 現在、事業所は、利用者の状態のこともあり、食事の準備を行える方が減り「利用者のできること」が少なくなってきたようである。座ったままでできるような、豆やつわ踏の筋取りやもやしの根切り等をされている。職員は、利用者の介助をしながら一緒に同じものを食べておられた。イスが利用者の体格に合わないこともあり、足元に四角い空き缶を置き安定して食事ができるようにされていた。一人ひとりに合わせて、食べやすいように刻んだりミキサーにかけたりされていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量は介護記録に記入し、把握出来るようにしている。又、その人の好みに合わせ、水分補給時には、ジュース類、コーヒー、牛乳などお出しするよう工夫している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 殆どの方が介助し、口腔ケアを行っている。週に1回は必ず義歯洗浄、コップや歯ブラシの消毒を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) パットや紙パンツに頼らず日中は時間を見ながら早め早めの声掛けでトイレ誘導を行っている。 (外部評価) 一人でトイレに行ける方は少なく、パッド交換がうまくできない方や立位が不安定で二人介助が必要な方がおられる。それでもできる限りトイレに行ってもらいたいと職員は考え、尿意が不確かな方でも2時間毎に誘導されている。夜間、頻回にトイレに行こうとして転倒の危険がある場合は、ご本人が動くと鈴が鳴り、職員に分かるようにされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤に頼らず、牛乳や野菜ジュース等を飲んで頂いたり、体操等で身体を動かして頂くよう工夫している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 概ね2～3日に1回は入浴出来ている。入浴が出来ない時(発熱等により)は清拭を行うようにしている。 (外部評価) 事業所の浴室で入浴できる方は少なくなってきているようだが、2～3日に1回は入浴できるように支援されている。いろいろな理由を言って「入らない」と言われる利用者の方は、時間をおいて誘ってもらえたり、声かけを工夫されている。併設デイサービスのリフト浴を利用されている方もあり、ユニットから1名づつ2名の職員が介助して支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の意志や希望を聞くなどして、居室で休まれたり、食堂でゆったり過ごして頂くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 介護記録には、薬の効能、用法、用量を記入しており、又、薬情も一緒にファイルしているので、再確認出来るようにはしているが、副作用については、全員が理解しているとは限らない。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る作業には、無理のない程度に参加して頂き、職員との日々の関わりの積み重ねで、楽しみごとの支援に努めている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の人々との外出は出来ていない。地域の祭り事には、参加するよう努めている。身体状況の事もあり利用者個々の外出支援には至っていない。	
			(外部評価) 利用者に行きたい所を聞くと「自宅が気になる」と言われる方が多いようだ。ご自宅が近い場合は、散歩時等に車椅子で立ち寄ってみられたり、ご家族が迎えに来られ、戻ってみる方もある。車いすを使用する利用者が増えたため、外出にはデイの車を借りたり、職員数等も必要になってきている。	ご本人やご家族とも相談しながら、介護度が重度でも、体調や天候をみながら、季節を感じたり、懐かしい気持ちになれるような場所等に出かけることはできないだろうか。外出時協力していただける方等も作り、利用者が出かける機会を作っていかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 殆どの方は、所持、管理はされていない。必要な物品が有れば、家族の了解のもと、ホームの立て替えを利用したり、家族が持って来られたりしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族に電話をかけている方はおられるが、手紙を書ける方は殆どいない。希望される方には支援したい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>食堂には、季節感を採り入れた壁画を飾っており、温度調節にも気を配っている。ケアする事ばかりに気を取られず、ゆったりとして、安心して過ごされるよう見守りに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>元は、ケアハウスだった建物を改装しているホームで、居間から利用者の居室や玄関が見えないので、玄関センサーで利用者や来客の出入りが分かるようになっている。広い中庭には、季節の野菜や桜・ブルーベリーを植えておられた。居間から中庭が眺められ、開放感があり、天気の良い時に等は、テラスに出て過ごすこともある。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>食堂、廊下にはソファを設置して、利用者同志が過ごせるように工夫をしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居室には、備え付けのタンスがあり、荷物は限られているが、テレビや冷蔵庫、馴染みの物を置いておられる方もいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室入口には、職員手作りの表札が掛けられてある。タンスとベッドは備え付けとなっており、冷蔵庫やテレビ等を持ち込まれたり、ご家族の写真や折り紙の作品を貼っておられる方もおられる。昼食後は、おやつまで居室で横になられる方が多く、職員は各居室の室温に気を付けておられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>トイレや居室には、目印になる表示をし工夫している。又、トイレを引き戸に修理する等配慮している。</p>	